

経営(継承)のツボ

理念



転期に立つ経営者の資質の鍛え方④

千載一遇

早川浩士

有限会社ハヤカワプランニング代表取締役

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に「早川浩士の常在学場」(筒井書房、9月10日発刊予定)、「介護人財創造塾」(筒井書房)、「介護保険改正に勝つ!経営」(年友企画)、「データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望」(日本医療企画)など。

http://www.hayakawa-planning.com

ブログ: http://ameblo.jp/hayakawa-planning/

「千載一遇」とは……

2008年9月15日のリーマンショックから一年が経過。以来、「百年に一度の危機」というフレーズが定着した。めったにないチャンスにめぐり合うことを千載一遇の好機という。だが、ピンチに立たされた場合、千載一遇の危機というのだろうか。

「載」は、積載・満載など載せることや運ぶこと、記載・掲載など書き記すことに加え、10の44乗の単位を表す場合にも用いる。

一、十、百、千、万、億、兆(10の12乗)まで言えても、そこから先を知る人は稀である。

- 「京」10の16乗
- 「垓」10の20乗
- 「秭」10の24乗
- 「穰」10の28乗
- 「溝」10の32乗
- 「澗」10の36乗
- 「正」10の40乗
- 「載」10の44乗
- 「極」10の48乗
- 「恒河沙」10の52乗
- 「阿僧祇」10の56乗
- 「那由也」10の60乗
- 「不可思議」10の64乗

「無量多数」10の68乗

と、見慣れない字が登場する。

誕生から約46億年(14京5065兆6000億秒)といわれる地球を24時間ドラマに収めようとすれば、日米修好通商条約によって横浜、長崎、函館の3港を開港した1859(安政6)年の出来事を見られるのは、23時59分59秒過ぎのこと。

地球生誕24時間ドラマの前では、約1500年分の歴史でさえ、わずか1秒でしかない。たかが1秒。されど、1秒のなかにさまざまな出来事が凝縮されている。

目の前を過ぎる一瞬、そのコマコマを千載一遇ととらえることができるようでありたい。

事故が起きてからでは遅すぎる

さて、7月21日昼前、ゲリラ豪雨が山口県防府市の特別養護老人ホームを襲った。

土砂崩れの直撃を受けたホーム1階のホールに流れ込んだ土砂は、人の背丈の高さまで及んだことから7人もの入居者の命を奪ってしまおうという大惨事となった。

同市は、土砂災害防止法で定められた土砂災害情報の高齢者施設

などへの伝達方法を決めていなかったという。

また、同法で定められた避難場所などを記載した地図(ハザードマップ)も作成していなかったことが、後になって判明した。

一方、旧厚生省が2000年3月に都道府県と市に通知した「特別養護老人ホームの設備及び運営に関する基準」では、特養施設は風水害、地震などの災害に対処するための非常災害に関する具体的計画を策定しなければならないとしている。

昨年1月、山口県が同ホームを指導監査した際、「計画を策定するように」と口頭指導が行われたものの、そのまま終わっていた。

施設側が独自に雨量計を設置して、1次、2次などの警戒体制を敷くところ、行政と介護施設や関係機関が一体となって防災ラジオを有効に活用する地域もある。

「まずは、安全な場所に逃れる」ことが鉄則であり、日頃からの避難誘導の訓練は欠かせない。

「千載一遇の危機」の出来事を教訓にして、事故の再発を防ぐことが肝要である。

事故が起きてからでは遅すぎる。